

平成28年度

J Aあきた白神農畜産物生産者大会

農業者の所得増大と生産拡大、地域に根差した活動に取り組み



J Aあきた白神（佐藤謙悦組合長）と青果物振興連絡協議会（山谷初男会長）による、平成28年度農畜産物生産者大会が2月21日に開かれ、優良生産者の表彰や平成29年度の計画などが報告されたほか、農林水産省の政策統括官を招き、「米政策の見直し」についてご講演をいただきました。

同大会には、生産者やJ A・市場関係者など222名が出席。はじめに、佐藤組合長がTPPやJ A改革など経済・農業を取り巻く環境の不透明さに触れながら「このような環境の中で、当J Aの農畜産物はほとんどの品目において平年を上回る実績となっている。白神ねぎは昨年引き続き販売額10億円を突破し、13億円まで達した。今年開かれる、全国ねぎサミットにいいはずみがついた。また、白神山うども出荷の最盛期を迎え、潤沢な入荷となっている。今後も白神ブランドを中心に信頼の向上を図り、農業の発展と、後継者が安心して就農可能な所得の確保・向上に向け取り組んでいく」とあいさつしました。

続いて山谷会長が「夏場の異常な高温と干ばつにより、栽培管理に苦労した年であった。しかし、生産者の素早い対応と培った栽培管理技術により、被害を最小限に食い止め、出荷に励んでくれた。この大会を通じて、さらなる耕畜連携で豊かな農業経営を勝ち取ろう」と今後に向けて抱負を話しました。

今年度の販売実績見込みは55億2919万円としており、計画対比

109.6%となっております。また、平成29年度は、農畜産物販売高56億9893万円の目標を掲げ、「他産地に勝る高品質な農畜産物の出荷と、天候に左右されない生産技術の確立により有利販売を勝ち取ろう」など4項目からなる大会宣言をし、満場一致で採択されました。

また、農林水産省政策統括官経営安定対策室長の秋葉一彦氏が、米を巡る状況や30年産に向けた取組事例などについて講演し、参加者らは米政策の見直しを見て理解を深めました。



→白神農畜産物のさらなる知名度向上を目指す必要性を話す山谷会長



→「30年産米」の需要に応じた生産の重要性を話す秋葉室長